

## 【90】 秘境駅と分水嶺のコンビ

2つの河川の流域（集水域）が接する流域界（分水界）は、平坦な土地のこともありますが、山脈、山の稜線、尾根などの場合が一般的で「分水嶺」と呼ばれます。東北地方を南北に縦断する奥羽山脈はその代表例で、最上川など日本海へ流入する河川と北上川など太平洋へ流入する河川の分水嶺となっています。

ところで、JR 北海道 室蘭本線の始発駅の長万部駅から室蘭方面へ20 kmほど走ったところに、“小幌”（こぼろ）という駅があります。トンネルとトンネルの間の小さな無人駅で、周囲には粗末な駅舎もどきの建物が一つあるだけです。近くには住家どころかまともな道路もないという孤絶した駅です。その小幌駅は、鉄道マニアの間では大変有名で、日本一の秘境駅と云われています。秘境駅とは、人家や農地の少ない山奥や海岸の人煙まれな地域にある鉄道駅のことですが、近ごろマニアックな関心を呼んでいるものです。室蘭本線が内浦湾（噴火湾）に面した断崖にさしかかり、通例ならば崖の斜面を切り崩して鉄道線路を敷くところ、あまりの急崖なのでやむを得ずトンネルにしたのです。崖が内陸部に凹んだところでトンネルが途切れ、そこに小幌駅を設けたわけです。

さて、前座が長くなりましたが、我々の興味は秘境駅ではなく分水嶺です。実は小幌駅の頭上にのしかかる断崖の頂上が分水嶺となっており、断崖の背後の北側の斜面は日本海側の2級河川“朱太川”（しゅぶとがわ）の流域なのです。小幌駅とその前後の断崖は太平洋の湾である内浦湾に面していますから、この断崖の頂上の稜線は日本海と太平洋の分水嶺をなしています。この分水嶺から眼下の海岸まで、近いところは300 mしかなく、分水嶺から朱太川河口の寿都（すつ）の町までは直線で30 kmですから、100倍もの違いがあります。

というわけで、小幌駅の背後の崖の頂上は、北海道から本州を通過して九州までの太平洋と日本海の分水界（山脈でない平坦地もあり）が、太平洋に最も接近しているという、地理学的には特別の場所でもあるのです。

【(参考) 図解 日本地形用語辞典、 日下 哉、 東洋書店、 2003年】